

裾野市学校給食施設整備基本構想-概要版-

(裾野市教育部 教育総務課)

■基本構想策定の目的

以下の課題に対応し、安全・安心でおいしい学校給食の安定した提供を実現するため、本市の学校給食施設の整備についての構想を示すもの。令和7年3月策定。

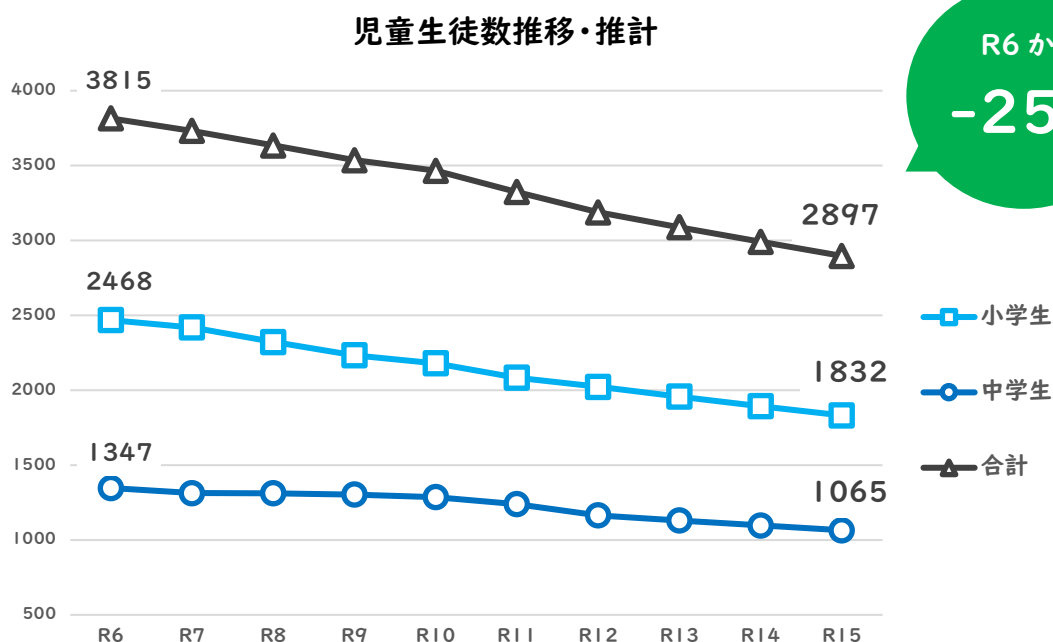
- ・給食施設の老朽化
- ・学校給食衛生管理基準（平成21年施行）の不適合
- ・児童生徒数の減少及び働き手（給食調理員）の減少（確保）
- ・食物アレルギー対応への重要性の高まり

■現状の給食施設一覧

施設名	建築年度	経過 年数	床面積	調理食数 (R6.5)	対象校・方式
学校給食センター	平成5年度	31年	1,040 m ²	1,850 食	中学校5校(東・西・深良・富岡・須山) 小学校2校(富岡第二・南)
東小学校	昭和52年度	47年	209 m ²	603 食	自校方式
西小学校	昭和55年度	44年	180 m ²	763 食	自校方式
深良小学校	昭和56年度	43年	154 m ²	240 食	自校方式
富岡第一小学校	昭和47年度	52年	174 m ²	487 食	自校方式
須山小学校	昭和56年度	43年	147 m ²	110 食	自校方式
向田小学校	昭和63年度	36年	150 m ²	101 食	自校方式
千福が丘小学校	平成元年度	35年	149 m ²	119 食	自校方式

※合計 4,273 食（児童生徒 3,815 食＋教職員等 458 食）

■児童生徒の推移・推計



■基本方針

- ①学校給食衛生管理基準への適合
- ②食物アレルギー対応給食の提供
- ③環境負荷の低減に配慮
- ④次世代に負担を残さない施設整備

■採用する実施方式

以下の理由から全校においてセンター方式を採用し、新たな学校給食センターを建設

- ・集中的な衛生管理による安全・安心な学校給食が提供できること
- ・敷地の確保が容易かつ借地の解消が図れること
- ・市内各校に同品質の給食を提供できること
- ・将来の財政負担が比較的少ないこと

■新学校給食センターの概要

開設時期：令和13年度の夏休み明け

規模：延床面積 約 2,500 m² / 敷地面積 約 6,000～8,000 m²

建設候補地：東中学校の跡地（既存市有地の中から選定）

提供能力：3,000食（令和13年度 計画食数：3,538食／日）

※今後の児童生徒数の減少を鑑み、西小学校のみ数年間自校方式を継続

米飯の提供：炊飯あり

事業方式：民間活力導入可能性調査を実施し、最適な事業方式を選定

※公設公営、公設民営、PFI など幅広く検討

■事業スケジュール

※選定する事業手法によりスケジュールが前後することが想定されるため、基本計画策定時に再設定。

年度	実施内容	備考
令和7年度	民間活力導入可能性調査	調査業務委託発注 最適な事業方式を決定
	基本計画策定	
令和8年度	仕様書のまとめ・作成 事業者選定・決定	PFI方式を採用の場合、 アドバイザリー業務委託発注 東中移転（令和10年4月）
令和9年度		
令和10年度		
令和11年度	設計	
令和12年度	建設工事（各学校の搬入口含む）	
令和13年度	開設（夏休み明け～）	夏休み中に各学校の搬入口を整備
令和15年度 ～ 令和17年度	西小学校のセンター方式の採用 （夏休み明け～）	夏休み中に西小学校の搬入口を整備